

わが

「住みたいまち、次世代に誇れるまち」 の実現に向けて

緑あふれる大自然に
包まれるまち 歌志内

歌志内市は、北海道のほぼ中央、石狩平野の東北端の山間に位置するまちです。周囲は、緑あふれる山並みに囲まれ、狭い山間を山岳地帯に源を発し、市名にも由来するペンケウタシユナイ川が東西に貫流しています。その両岸に続く平たん地に、河川と並行して道道赤平奈井江線が縦断しており、市街地はこれに沿って帯状に形成されています。

気候は内陸性で、四季の変化に富み、まち全体が美しい自然を織りなします。特に、管内一面を見渡すことができる「かもい岳」山頂では、春と秋の夜明けから早朝にかけて、条件が整えば望むことのできる雲海がとてつもない幻想的です。



祭りのフィナーレは、重さ1tの石炭みこしが会場を練り歩く

北海道の雄大さを物語るにふさわしい風景であり、見た人にしか味わえない感動を与えてくれます。市内では、市民有志による各種イベントが開催され、7月上旬のうたしない市民祭り「SYOTTEKKE」では、かつて石炭で栄えていたまちならではの、重さ約1tある石炭みこしが会場を練り



市外からも多くの来場者が訪れる「歌志内なまはげ祭り」は迫力満点

歩き、まちに活気をもたらしてくれます。また、2月の第1日曜日には、秋田県男鹿半島地方の行事として知られる「なまはげ」に独自のアレンジを加えた「歌志内なまはげ祭り」が開催されます。全身に「糞」をまとい、大きな鬼面をかぶった男たちが「なまはげ」に扮し、練り歩く姿は迫力満点。

持続可能な行財政運営の 推進

例年市外からも多数の来場者が訪れています。

全国的に人口減少や少子高齢化の急速な進展が、大きな社会問題になっていきますが、本市におけるその影響は著しく、かつて石炭産業とともに発展し、ピーク時には4万人を超えていた人口も、国のエネルギー政策の転換などにより、炭鉱が相次ぎ閉山したため、今では日本一人口の少ない市となりました。本年3月末日においては人口が3000人を割り込み、加えて高齢化率は50%を超えている状況にあります。

この状況は、避けられないものであると受け止めながら、計画的で効率の良い財政運営に努め、持続可能な行財政運営の推進を念頭に「住みたいまち、次世代に誇れるまち」の実現に向けて、総合計画（後期基本計画）に掲げる各種事業に取り組んでいます。



かもい岳の山頂から望むことのできる幻想的な雲海

公共施設などの集約化 市民サービスの向上による まちづくり

本市の場合、大幅に人口を増やすことは難しいかもしれませんが、たとえ人口が減少しても暮らしやすいまちづくりが必要であり、将来を見据え、これからの人口規模に合わせた公共施設などの集約化や、市民サービスの向上が重要であると考えています。

集約化を進めるに当たり、平成30年に幼保連携型の認定こども園を開設し、この春、小中一貫の義



この春開校した義務教育学校の交流会の様子

務教育学校「歌志内学園」を開校しました。将来的には、認定こども園、義務教育学校の近くに、市内2カ所に設置している児童館などの施設を一元化するほか、周辺に子どもたちが楽しむことのできる水遊び施設の設置を予定しているところですが、この集約化により人件費をはじめ、維持管理経費の軽減が図られるとともに、人口規模に見合った子ども・子育て支援機能の充実、若い世代の定住につながることに期待しています。

また、市民サービスにおいては、この住み慣れた故郷で暮らす高齢者が可能な限り、健康で幸せと思える日常を過ごしていただくことが重要であります。そのため

にも住まいや医療、介護や生活支援が一体的に切れ目のない体制とする高齢者福祉をより充実させ、「健康寿命の延伸」を目指しています。

また、子育て世帯の経済的負担軽減策として、公立学校の給食費や修学旅行費の無償化の実施、次世代を担う子どもたちの学力向上を目指す公設学習塾、高校生への就学支援など、魅力ある子育て支援に努めています。

プロフィール

- ◆ 面積 55・95 km²
- ◆ 人口 2986人
- ◆ 世帯数 1790世帯

〔将来都市像〕みんなで創る笑顔あふれるまち

〔まちの特徴〕かつては石炭の産地としてにぎわい、今は日本で1番人口が少ない「日本一小さな市」

〔特産品〕チロルレタス（水耕栽培の



歌志内市長
柴田一孔

結びに

現在の社会情勢は、新型コロナウイルス感染症収束の見通しが立たず、厳しい状況にあります。まずは市民の新型コロナウイルスワクチンの予防接種を早期に完了させ、感染拡大の防止を図るとともに、本市が抱える課題の解決に取り組み、目標とする「人が魅かれるまち」を目指して、市民とともにまちづくりを進めてまいります。



葉野菜、なんこ味噌煮、観賞石
〔観光〕うたしないチロルの湯、かもい岳国際スキー場、郷土館ゆめつむぎ
〔イベント〕うたしない市民祭り「SYOTTEKE」、歌志内なまはげ祭り

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「来てよし、住んでよし、働いてよし」
の三方よしのまち・入間市へ日本三大銘茶「狭山茶」の
主産地

「色は静岡、香りは宇治よ、味は狭山でとどめさす」とうたわれる狭山茶は、入間市が生産量1位を誇る自慢の地



一面に広がる茶畑

場産業で、地域の1割にも及ぶ広大な茶畑は、まちのシンボルとなっています。狭山茶の生産量は日本茶全体の2%ほどで、「自園自製自販」のスタイルを取り、各茶園がそれぞれ製法から販売ま

で手掛ける域内流通がメインのため、大変希少性が高い「幻の銘茶」とも言われています。

本市は、全国手もみ茶品評会で1等1席の農林水産大臣賞を毎年輩出し、産地賞は15年連続で受賞しています。さらに、パリ日本茶コンクールで2年連続グランプリを受賞するなど、茶師のまちでもあります。昨年には、中島毅さんが手もみ茶の名人称号である「永世茶聖」を全国で初めて授与されるなど、狭山茶は市民の誇りであり、宝となっています。今後は、企業との連携協定に基づくスマート農業への取り組みにも挑戦しながら、希少性と匠の技術を生かしたさらなる高付加価値化に取り組みとともに、全国的な流通や輸出にも力を入れていきたいと考えています。

デジタル未来都市への挑戦

全国で自治体DX（デジタルトランスフォーメーション）が進められていますが、本市では、社会課題を解決し、市民生活をより豊かにすることを目的とした「デジタル未来都市」の実現に向けて取り組みを始めています。本年度から非常勤特別職としてDX担当の政策参与を民間から採用し、3レス（ペーパーレス、キャッシュレス、はんこレス）をはじめとした行政事務の改善を徹底的な市民目線を進めるとともに、AI・IoTを実装する超スマート社会を築き上げるべく、民間と協働したプロジェクトを立ち上げています。

また、鶴ヶ島ジャンクションを中心に、半径10km圏内の13市町で協議会をつくり、オープンイノ

ベーションによる未来産業の集積化と実証フィールドを有した新産業の育成に取り組んでおり、本市はそのフロントランナーとなるべく、新たな産業団地の開発や企業誘致に向けたプロジェクトを立ち上げました。超微細加工技術で日本のシリコンバレーを目指している企業体「チーム入間」が掲げる「マイクロヒル構想」の実現を夢見ながら、官民一丸となってスマートシティを創り上げていきたいと考えています。

入間ゲートウェイ構想への
挑戦

本市には、三井アウトレットパークとコストコホールセールが並んで立地しており、年間700万人が訪れる県内で3番目に観光入込客数の多いまちとなっています。

かつて米軍基地があった際のアメリカンハウスの街並みが残る「ジョンソンタウン」や、製糸業で栄えた際の迎賓館である「旧石川



古き良きアメリカの雰囲気を楽しめるジョンソンタウン

くことになりました。入間市を好きになっただけ、「来ていただき、「来てよし」と思っただけの観光のみならず進化していきたいと思っています。皆さまもぜひ、本市へお越しください。

組製系西洋館」、織物業の研究施設を生かした「入間市文化創造アトリエ AMIGO!」などがあり、最近では、1万円札の肖像となる洪沢栄一が顧問となって設立した「旧黒須銀行(現埼玉りそな銀行)」にも大変注目が集まっています。そこで、「入間ゲートウェイ構想」を立ち上げ、車や電車、インターネットなど、あらゆる経路から市内に触れる玄関口を魅力化し、市内の観光資源をPRするとともに、来訪者を歓迎するおもてなしの取り組みをするプロジェクトを始めています。本年6月には、本市出身のタレントである朝日奈央さんをPR大使に任命し、本市のシテイセールスにご尽力をいただくことになりました。入間市を好きになっただけ、「来ていただき、「来てよし」と思っただけの観光のみならず進化していきたいと思っています。皆さまもぜひ、本市へお越しください。



狭山茶と触れ合う特色のある教育

子ども第一主義のまちづくり
本市では「元気な子どもが育つまち」を目指し、子ども・若者未来応援プランを策定して子育て支援に取り組んでいます。特に、地域の公園や広場など、子どもたちの自由な遊び場を整備すべくプロジェクトを始めています。本年度は、さまざまな場所に移動して遊びの環境を作るために、遊び道具を積んだプレイカー事業を進めており、現在、外装デザインや愛称を公募しています。また、障がいのある子どもへの支援にも力を入れており、昨年3月には、全国で初めてとなる国立障害者リハビリテーションセンター学院との連携



入間市長
杉島理一郎

〔将来都市像〕香り豊かな緑の文化都市
〔まちの特徴〕茶畑や丘陵など変化に富んだ自然と、利便性の高い交通網が形成された、農業・商業・工業がバランスよく発展したまち
〔特産品〕狭山茶、里芋、シイタケ、入間豚、卵、うど、ごぼう

◆ 面積 44・69km²
◆ 人口 14万6626人
◆ 世帯数 6万6773世帯

プロフィール

協定を締結して、入間市児童発達支援センター「ういず」を開設しました。乳幼児から学校生活に至るまで、発達の段階に応じた切れ目のない一貫した支援に取り組んでいます。全ての家庭が安心して子育てができ、全ての子ども・若者が健やかに心豊かに育つまちづくりに向けて、今後も市民一丸となって取り組んでいきたいと思っています。



〔観光〕茶畑景観、加治丘陵、ジョンソンタウン、入間市文化創造アトリエ AMIGO!、旧石川組製系西洋館、旧黒須銀行
〔イベント〕おとろろうまつり、八十八夜新茶まつり、わんぱく相撲入間大会、いるま「太鼓」セッション、入間万燈まつり、入間航空祭



旧石川組製系西洋館

※面積は国土地理院「全国都道府市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

人輝き あたたかさ湧きでる みんなで作る元気なまち

橋本

「便利な田舎」はしもと

橋本市は、和歌山県の北東部、世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」で知られる高野山の麓に位置し、雄大な紀の川や紀伊山地の山並みに囲まれた自然豊かなまちです。大阪市中心部へ電車で約50分というアクセスの良さもあり、都市部

での仕事を続けながら田舎暮らしができる「便利な田舎」として、移住希望者から高い評価を得ています。

温暖な気候や地形を生かした柿などの果樹栽培が盛んな地域であり、かつては高野山の食糧供給地として、精進料理文化を支えてきた歴史



市内を東西に流れる雄大な「紀の川」



一定の栽培基準を満たした安全安心な「高野山麓精進野菜」

と伝統を踏まえ、安全安心な栽培基準で作られる「高野山麓精進野菜」のブランド化にも積極的に取り組んでいます。参加する若手農業者も増えてきており、耕作放棄地の解消にもつながっています。

地場産業では大きく二つの産業があり、一つは、この地域で採れる竹を使って、職人が全ての工程を手作業で仕上げるヘラブナ釣りに専用の竹竿「紀州へら竿」です。経済産業大臣指定の伝統的工芸品として指定されている紀州へら竿

は、竹竿独特の釣り味を楽しむファンに高く評価され、国内のみならず、海外にもファンを獲得しつつあります。もう一つは国会議

事堂の椅子の生地にも使われ、「高野口パイル」として知られる

パイル織物です。近年では毛皮の風合いを再現したエコファーが有名海外ブランドにも採用されるなど、サステイナブルな製品として

注目が集まっています。本市では、歴史や伝統をベースにしながらも、新しいことに

挑戦する気持ちが大事だと考える人を応援するまちを目指しています。

企業誘致による 地域経済活性化

高度経済成長時、本市は大阪方面への通勤圏として住宅開発



企業誘致用地「紀北橋本エコヒルズ」と「あやの台北部用地」

を進め、一時期は全国でも有数の人口急増都市となりました。しかしながら、近年は少子高齢化の進行や若者の働く場の不足による人口減少、バブル後の住宅価格下落などに伴い、住宅開発にも限界が生じ始めました。これらの課題を打開するため、平成19年度に民間企業が住宅開発を計画していた用地の一部を工業系に方向転換させるといった思い切った政策転換を行い、工業団地「紀北橋本エコヒルズ」が誕生しました。併せて、既存の奨励金制度を全



「紀の川橋本SUMMER BALL」の火花

面的に見直し、企業誘致を進めていた和歌山県と本市を合わせて、全国トップレベルとなる1企業当たり最高150億円の奨励金制度と低廉な用地単価を売りに、「親切・ていねい・熱意」をモットーとして企業誘致を進めてきました。

その結果、「紀北橋本エコヒルズ」には35社の企業に進出していますが、引き続き、完売状態となっており。現在、さらなる企業誘致の推進のため、南海電気鉄道株式会社や和歌山県のご協力により新たな工業団地「あやの台北部用地」の整備事業に着手し、令和4年度末の完成を目指して工事を進めています。

今後、企業誘致をはじめとした地域経済の活性化に取り組み、雇用の場の確保や定住・移住の推進につなげていきます。

安心して子育て子育て できるまちを目指して

本市では、子育てに関係するあらゆる部署や関係機関、病院などとの連携を密にするため、平成29年度より「子育て世代包括支援センター」を立ち上げ、保護者に寄り添った支援を心掛けています。

「妊娠期から18歳までの切れ目のない支援」を重点施策に掲げ、安心して保護者が子育てできるよう、早期からの支援に務めています。家庭で起きているさまざまな不安や困難について、単に表面化している問題だけを取り上げるのではなく、潜在しているDVや虐待、経済的困難や保護者自身のしんどさなど、あらゆる面からアセスメントすることで、課題の解決につなげていきます。

また、発達に心配のある子どもへの総合的かつ継続的な支援にも取り組んでいます。健康診査や、フロアのための教室、発達相談を通じて、子どもや保護者の状況を把握し、関係機関との連携により、児童発達支援事業や各園での発達支援保育につなげています。市内全ての子どもたちが「一人ひとりが輝ける、一人ひとりが大切にされる」サポート体制を構築し、それを就学後にまでつなげることで、保護者が子どもの将来を見通し、安心して楽しく子育てができる仕組みを目指しています。

とりが輝ける、一人ひとりが大切にされる」サポート体制を構築し、それを就学後にまでつなげることで、保護者が子どもの将来を見通し、安心して楽しく子育てができる仕組みを目指しています。

住んでよかった 住みたくなるまち 橋本

本市が持つ交通の利便性、豊かな自然や文化に育まれた特産品な

プロフィール

- ◆ 面積 130.55 km²
- ◆ 人口 6万1429人
- ◆ 世帯数 2万7379世帯

〔将来都市像〕人輝き あたたかさ湧きでる みんなで創造する元気なまち 橋本

〔まちの特徴〕和歌山県の北東端に位置し、京阪神地域へのアクセスが良好な自然の恵みあふれるまち

〔市町村合併〕平成18年3月1日、橋本市、高野口町が合併



橋本市長
平木哲朗



〔特産品〕紀州へら竿、パイル織物、柿、ブドウ、はたごんぼ、高野山麓精進野菜、鶏卵

〔観光〕世界遺産「黒河道」、玉川峡、隅田八幡神社、利生護国寺、子安地藏寺、学文路刈萱堂、隠れ谷池、葛城館、不動山の巨石

〔イベント〕紀の川橋本SUMMER BALL、まつせ・はしもとく柿まつり、橋本マラソン、高野公園園桜まつり、県指定無形民俗文化財「嵯峨谷の神踊り」

どの地域資源を有効に活用し、これからも地域経済の活性化や子育て支援の充実に取り組むことはもちろん、官民連携による地域の魅力発信にも力を入れていきたいと考えています。

コロナ禍の厳しい状況にありますが、創意工夫をしながら市民の皆さまとともにこの難局を乗り越え、生き生きと暮らせる橋本市の実現に向けて取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「スマイルシティ山陽小野田」を 目指して

緑豊かな自然と利便性が
調和した工業都市

山陽小野田市は、瀬戸内海に面し、山口県の南西部に位置する都市です。石油、化学、医薬品、鉄鋼、機械メーカーなどの優良企業が立地し、製造品出荷額が県内3位、人口当たりの都市公園面積は県内1位であり、その充実した住環境は「住みよさランキング」県内2位に選ばれる魅力となっています。



桜の名所である竜王山公園

スマイルシティ山陽小野田

市のキャッチフレーズである「スマイルシティ山陽小野田」を実現させるため、笑顔をキーワードにまちづくりを進めています。6年前に公立化し、薬学部を新設した市立山口東京理科大学は、学生数の増加により、まちににぎわいと活力をもたらし、まちづくりの大きな原動力となっています。また、サッカーJ2リーグのレノファ山口FCの練習場がある強みを生かし、レノファの選手に出会えるまちとして、応援を通じてまちの一体感の



市のロゴマーク
 (スマイルシティ山陽小野田)



ガラス作品「コンポジション#199」(竹内傳治)

醸成を図るとともに、選手にもご協力をいただきながらスポーツによるまちづくりも推進しています。さらには、本市は窯業のまちとして栄えてきた歴史があることから、若手作家の登竜門として、3年ごとに「現代ガラス展 in 山陽小野田」を開催しており、現在はガラス文化を全国に発信していくため、ガラスのブランド化事業にも着手しています。今後も桜の名所である竜王山公園や日本の夕陽百選に

「協創によるまちづくり」の推進

選ばれた焼野海岸、くぐり岩など、本市の魅力ある地域資源を有効活用しながら、活力と笑顔あふれるまちづくりを進めてまいります。

令和4年度から、第二次山陽小野田市総合計画「中期基本計画」がスタートします。まちづくりの基本理念に「住みよい暮らしの創造」を掲げ、現在、策定作業の真っ最中ですが、基本とする考え方に「協創」があります。

「協創」は「多様な主体（市民、各種団体、学校・大学、企業、市議会、市）が『持続可能な地域社会の維持』という共通課題を共有し、課題解決のために協働し、新しい価値を創出する」と定義されるものです。今、暮らしている地域で、いつまでも暮らし続けるために、みんなが考え、課題を共有し、みんながまちづくりの担い手となって行動する、言い換えるなら、市民が力を合わせ、本市が一つの



本山岬公園「くぐり岩」(夕陽)

「協創」の意識が芽生えつつあることを実感していますが、より多くの市民の皆さまと理念や考え方を共有する必要があると考え、「協創」によるまちづくり推進指針を令和2年度に策定しました。現在、取り組んでいる事業で、「協創」を象徴するものが三つあります。

一つ目が地域運営組織の導入です。そこに暮らす方々が中心となって、地域課題の解決に向けた取り組みを継続的に実践することを目的とした組織であり、持続可能な地域づくりに向けて欠かせない仕組みであると考えています。本年度には地域運営組織推進室を新設し、体制の強化を図ったところです。

二つ目がLABVの取り組みです。LABVは、PPP(官民連携手法)の一つ

チームとなって「未来の山陽小野田市」を創りあげていこうということを目指しています。まちづくりに参画する本市のファンを登録する「スマイルプランナー」制度などを通じて、市民の中に徐々に「協創」の意識が芽生えつつあることを実感していますが、より多くの市民の皆さまと理念や考え方を共有する必要があると考え、「協創」によるまちづくり推進指針を令和2年度に策定しました。現在、取り組んでいる事業で、「協創」を象徴するものが三つあります。

一つ目が地域運営組織の導入です。そこに暮らす方々が中心となって、地域課題の解決に向けた取り組みを継続的に実践することを目的とした組織であり、持続可能な地域づくりに向けて欠かせない仕組みであると考えています。本年度には地域運営組織推進室を新設し、体制の強化を図ったところです。

二つ目がLABVの取り組みです。LABVは、PPP(官民連携手法)の一つ



LABVプロジェクト(パース図)

で、一定のエリア内の公有地を市が現物出資し、民間のアイデアと資金を活用してエリアのにぎわいを創出する手法です。市、商工会議所、地元金融機関、市立山口東京理科大学というキーパーソンが協議を重ね、事業構想がまとまりました。LABVは、日本では、いまだ実践例がない取り組みではありますが、関係者間で「協創の絆」を深めながら、本年度中の共同事業体の設立に向けて引き続き作業を進めてまいります。

三つ目が、人生100年時代、笑顔の源となる「心身の健康」を保ちつつ、誰もが笑顔で年を重ねていく取り組みを「スマイルエイジング」と称し、「知守(しるまもる)」「食事」「運動」「交流」の四つの基本

項目を掲げ、人の触れ合いや地域のつながりを大切にし、お互いに高め合いながら、健康寿命を延ばしていく取り組みを推進しています。

アフターコロナを見据えて

昨年来のコロナ禍にあって、社会は大きな変容を余儀なくされましたが、これを「変革の好機」と捉え、前向きに新たな時代の到来

プロフィール

- ◆ 面積 133.09km²
- ◆ 人口 6万1241人
- ◆ 世帯数 2万9066世帯



山陽小野田市長
藤田剛二

〔将来都市像〕活力と笑顔あふれるまち
ちゅスマイルシティ山陽小野田

〔まちの特徴〕県内唯一の薬学部を有し、地域のキーパーソンを育成し続ける市立山口東京理科大学があるまち

〔市町村合併〕平成17年3月22日、小野田市と山陽町が合併

〔特産品〕ネギ(おのだネギ三昧)、カボチャ、アスパラガス、キュウリ、ト



マト、ブドウ、イチゴ、地酒、ガラス製品

〔観光〕本山岬公園「くぐり岩」、花の海、きららガラス未来館、竜王山公園、きららビーチ焼野、山陽オートレース場

〔イベント〕竜王山さくらまつり、江の夕公園つつじまつり、寝太郎まつり、復活!住吉まつり、おのだ七夕祭り、お祝い夢花火、厚狭秋まつり、厚狭寝太郎の里おひなさまめぐり

に備えていく必要があります。まずは、感染拡大防止や市民生活・経済支援対策を最優先に実施していくとともに、「地域を創る」「ひとを創る」「まちの価値を創る」の三つの「創る」を柱として、「協創」の大きな旗の下、「活力と笑顔あふれるまち スマイルシティ山陽小野田」の実現に向け、職員一丸となって取り組んでまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。